

事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	特産品センター管理運営事業	会計名称	一般会計		担当課	経済雇用戦略課	
		予算科目	7 款 1 項 5 目	事業番号	3280	所属長名	大谷基文
事業評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)				担当責任者名	木曾智仁	
法令根拠等	伊予市なかやま特産品センター条例				実施期間	【開始】	平成 17 年度
総合計画での位置付け	産業振興都市の創造 賑わいのある観光の振興					【終了】	平成 年度(予定) <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし
総合計画における本事業の役割	賑わいのある観光振興のため、特産品の製造、宣伝販売を行う。						
事業の対象	市民及び市外観光客			事業の目的	特産品の製造、展示及び宣伝販売を行うことを目的とする。		
事業の内容 (整備内容)	指定管理の下、特産品センターの維持管理及び利用許可。特産品の製造展示及び宣伝販売等を行う。			昨年度の課題に対する具体的な改善策			

事業活動の内容・成果 (DO)

事業費及び財源内訳 (千円)							事業活動の実績 (活動指標)					
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	29 年度実績	30 年度予定	9月末の実績	30 年度実績
直接事業費	3,779	4,148	0	0	0	3,788	特産品センター店舗販売額	千円	50909	72755		72755
財源内訳						0						
国庫支出金		0	0	0	0	0						
県支出金		0	0	0	0	0						
地方債		0	0	0	0	0						
その他		0	0	0	0	0	入込み客数	人	26554	33197		33197
一般財源	3,779	4,148	0	0	0	3,788						
職員の人工(にんく)数	0.00	0.00				0.00						
1人工当たりの人件費単価	8,017	7,982				7,982			0			
※ 直接事業費+人件費	3,779	4,148				3,788						
主な実施主体	株式会社プロシーズ		実施形態(補助金・指定管理料・委託料等の記載欄)		指定管理料							
向こう5年間の直接事業費の推移 (千円)					31 年度	32 年度	33 年度	34 年度	35 年度	5年間の合計		
					4,800	4,800	4,800	4,800		19,200		
成果指標	指標	特産品センター店舗販売額			単位	千円	区分年度	29 年度	30 年度	31 年度	目標 毎 年度	
	指標設定の考え方	施設活用の効果の判断基礎となる特産品センター店舗での販売額とする。			⇒		目標	50000	50000	50000	50000	
	指標で表せない効果					実績	50909	72755				

事務事業評価 (CHECK)

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)											
事務事業評価	自己判定 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	B	事業成果・工夫した点	クラフトの里が道の駅化に伴う改修工事で一部休止していたことを受け、当該施設が観光客等の受け皿となり、特に栗の時期を中心に例年を上回る入り込み客数及び売り上げがあった。		
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。	3						
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。	3						
		有効性	事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	2	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	C	事業の苦勞した点・課題	クラフトの里の改修工事が完了し、道の駅としての供用を開始したことから、「中山町の玄関口」としての観光案内及び特産品等販売施設としての当初の役割は一定終えたのではないかと感じている。 指定管理者との協議の中でも施設の老朽化が進み、今後継続的に維持管理していくことが困難であるという話も出ているため、用途廃止することも含め今後の対応を検討したい。		
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。	1						
			施策への貢献度	5 4 3 2 1 施策推進への貢献は多岐にわたる。	3						
		効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。	2	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	C				
			コスト効率	5 4 3 2 1 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。	2						
			市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認められる。	2						
		の 評 価	一次判定 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	B	事業の方向性	<input type="checkbox"/> 事業継続と判断する。 <input checked="" type="checkbox"/> 事業縮小と判断する <input type="checkbox"/> 事業廃止と判断する (判断の理由) 道の駅なかやまがオープンしたこともあり、地産地消を推進してきた特産品センターとして当初の役割を一定終えたのではないかと考えており、事業縮小と判断する。
					社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。	3				
					市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。	2				
有効性	事業の効果			5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	2	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	C				
	成果向上の可能性			5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。	2						
	施策への貢献度			5 4 3 2 1 施策推進への貢献は多岐にわたる。	2						
効率性	手段の最適性			5 4 3 2 1 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。	2	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	C		所 属 長 の 課 題 認 識	中山地域の特産品である栗の販売・PRの中心施設であったが、経年劣化が激しく、今後修繕の増加が見込まれる。また、8月にオープンした「道の駅なかやま」を中山地域の特産品等の販売・PR・観光拠点としていくべきと考えており、特産品センターの管理運営については、指定管理者制度の導入見直しを検討していくとともに、将来の活用について研究する必要がある。	
	コスト効率			5 4 3 2 1 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。	2						
	市民(受益者)負担の適正			5 4 3 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認められる。	2						

施策を踏まえた判断	二次判定	<input type="checkbox"/>	一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断する。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input checked="" type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
<input type="checkbox"/>	既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。			

行政評価委員会の答申	外部評価	答申の内容
		<ul style="list-style-type: none"> ・栗の通信販売による売上げの割合が大きいなら、施設は縮小していいと思う。 ・廃止されるほうがいいと思う。方向性が決まっているのであれば、早めに閉じることも検討されるといいと思う。 ・中山高校の廃止、J R伊予中山駅の乗降者がかなり少ない状況では、この施設の役割はもう終わったのではないか。 ・駅に隣接していることが唯一の強みだと思っていたが、乗降客もいないのであれば、粛々と廃止へ進めていいと思う。 ・クラフトの里と同じ指定管理者であれば、閉鎖はそれほど難しくはないのではないか。 ・モータリゼーションの変化で人が立ち寄りなくなったのであれば、根本的に存在理由を考え直したほうがいい。

今後の方向性 (ACTION)

の経営者判断	事業の方向性	<input type="checkbox"/>	さらに重点化する。	コメント欄 様々な角度で合理的再編を行いながら、休止・廃止の方向で検討すること。
		<input type="checkbox"/>	現状のまま継続する。	
		<input type="checkbox"/>	右記の点を見直しの上、継続する。	
		<input type="checkbox"/>	事業の縮小を行う。	
		<input checked="" type="checkbox"/>	事業の休止、廃止を行う。	